

(6) 2017年(平成29年) 9月28日(木曜日)

「人が、ひとりでいるのは良くない」(創世記2章18節)

この言葉は、聖書の最初の部分である創世記で神がこの物質世界を創造されたプロセスの中で出てくる言葉です。短い文ですが恐ろしいくらい深い意味をもって響いてきます。この一文に「なぜ人は存在しているのか? 愛とは何か? 家族とは何か? コミュニティとは何か?」という問いに対しての答えが隠されていると感じます。「ひとり

でいるのは良くない」とは、人間という生き物が「人は1人だけでは存在目的を果たすことが出来ない」という現実を私たちに教えているのです。最近この「ひとりでいるのは良くない」という言葉が新たな意味を持って心に響いてくる体験がありました。知人の紹介で現在一人暮らしをしている82歳の日系のご婦人を訪問した時のことです。最初は元気がなさそうに見えたその方もいろいろな話をしているうちにどんどん血色がよくなってきました。53年前に日本からアメリカに

と云って力があふれてくるのが分かりました。そして2時間ほどお話しして私が帰るときにその方は「生き返ったよ」と言われました。それを聞いて私も嬉しくなり、帰りの車の中で叫びたくなるほど喜びが溢れてくるのを感じたので

「ひとりでいるのは良くない」

南加キリスト教教会連合

市川 祥

移住して来たときのこと、ハンバーガーが大好きなこと、おいしいスイカの見分け方や今まで飼っていたペットのことなど、その方はなんでも話してくれました。その婦人が笑うたびに「手の痛みが無くなった」「食欲が出てきた」

す。まるで行き場のなかった電流が、他の導線とつながった時に何倍もの力を流すように、命を感じました。婦人を励まそうとして訪問した私のほうも命と励ましをもらっていたのです。年を取れば体力や記憶力は

低下していくでしょう。病氣も多くなるかもしれません。しかし今私が持っている確信は人生の最後のステージこそ最高の命を体験できる時だということです。なぜなら今まで一人で出来ていたことが出来なくなるからです。より多くの助けが必要になるからです。そのような時にこそ実は命を体験できる最高のチャンスがあるのです。助けられる人も助ける人も同じ命を共有し互いに必ず元気をもらいます。

と祝福を受けることを勧めているのです。今年の8月からカマリロの教会では「元氣リビング」というプログラムが始まりました。これはベンチユラカウンティに住んでいる年配の方たちを対象に、健康診断や自宅の修繕、通訳などを無料で提供するものです。そしてただサービスを提供するのではなく真の目的は「命、生きる力、喜び、励まし」をこのプログラムとネットワークを通して互いに受け取ることによって「互いに愛し合いなさい」という言葉を実践していくことなのです。南カリフォルニアの日系社会においてます「助けられる人」と「助ける人」が密接につながり「互いに愛し合う」という実践にあふれていきますように祈ります。(カマリロ教会牧師)